

# 新基地建設反対名護共同センターニュース

## 生物多様性豊かな海 辺野古・大浦湾 日本初のホープスポット（希望の海）に認定！

ホープスポットを  
提唱した海洋学者  
シルビア・アール  
博士からの  
メッセージ



辺野古・大浦湾がホープスポットに選ばれる理由がいくつかあります。数千種の生物も棲むという多様性を持ち、そのうち200以上の種が絶滅危惧種に指定されています。その中に世界で数少ないところには存在しない有名なアオサゴ群集もよく発達しています。ジュゴンの棲む最適な場所もあります。

この海の価値の高さは生物多様性だけではありません。海の生態系と陸の生態系は1つのシステムにつながっています。そのシステムが日本の海全体の健康を守るために「辺野古・大浦湾」が重要な働きをしています。

しかし、ホープスポットに認定された理由がもう一つあります。辺野古の新基地建設についてかけがえのない自然を大切に思うみなさんの疑問の声を上げる機会です。一度壊せば、取り戻せないこの生態系か、進行中の工事か。どちらが大切なのか。

我々人間は、生きるために必要なものや豊かな生活を支えるために、陸も海も環境を変えてしまいました。しかし、人間が生きるには空気も、きれいな水も必要です。両方とも大気を通して海が用意してくれます。海の多様な生態系は我々の生存の基礎・基盤・支えになります。

この自然を一度壊したら元に戻すことは不可能です。ですから壊されないように声を上げましょう。

この重要な場所の大切さに世界の注目を集めた日本の守り手（チャンピオン）にお祝いの言葉を送りたいと思います。世界の100以上あるホープスポットのネットワークに「辺野古・大浦湾」も加わることができ、おめでとうございます。

**日本自然保護協会、へり基地反対協など申請**  
ホープスポットへの申請は、次の団体による連名で行われました。（順不同）日本自然保護協会、ジュゴンの里、北限のジュゴン調査チーム・ザン、ジュゴンネットワーク沖縄、へり基地いらぬ二見以北100区の会、へり基地反対協議会、ダイビングチーム・レインボー、海の生き物を守る会、ジュゴン保護キャンペーンセンター、沖縄環境保護ネットワーク、ラムサール・ネットワーク日本

日本自然保護協会は25日、アメリカを拠点とするNGO（非政府組織）「ミッシヨンブルー」が、世界的にも重要な海域を認定する「ホープスポット」（希望の海）に、辺野古・大浦湾一帯の44.5平方キロメートルを選んだと発表しました。国内では初めてで、同海域の生物多様性や希少なサングゴの存在、辺野古の米軍新基地建設に抗議し、環境を守ろうとたたかう市民や環境団体の取り組みが認められたものです。「ホープスポット」は現在、世界で110ヶ所以上が認められています。海洋学者で米海洋大気局の主任科学者も務めたシルビア・アール氏が海洋保護の世界的な意識を高めようと2009年立ち上げました。



人間が生きる基礎・支えの海を守ろう！

## 米労組・APALA を招き「辺野古シンポジウム」



APALA 幹部と糸数氏らパネリスト（上）熱心に聞き入る参加者（右）



「オール沖縄会議」は23日、アメリカで約66万人の組合員で構成するアジア太平洋米国人労働者連合（APALA）のメンバーを招き辺野古新基地問題のシンポジウムを那覇市内で開催しました。APALA幹部ら4人のパネリストが登壇し、市民140人が参加しました。

**辺野古新基地阻止へ 米国内でも世論喚起を**  
APALA創設者のケント・ウオンさんは「権力にあらがう辺野古の長い闘いに感銘した。米国内で力強い連帯を築きたい」と話しました。シンポジウムでは、辺野古新基地問題での米国内の世論喚起などで連帯し、建設阻止へ向けてともに行動することを確認しました。前参院議員の糸数慶子さんもパネリストとして発言しました。APALAのメンバーは沖縄滞在中、辺野古新基地建設現場や平和の礎、普天間第2小学校などを訪問、デニー知事とも会談しました。